

第4学年 社会科の実践

1. 単元名 「地域で受けつがれてきたもの」

2. 単元目標

○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身に着けるようにする。

○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握してその解決に向行けて社会へのかかわりを選択判断する力・考えたことや選択判断したことを表現する力を養う。

○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」
・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

これまでのひびき合いをめざした授業では、友達の意見や考えに対し「付け足し」や「質問」という声上がり、自分たちで学んでいこうとする姿勢が見られる。理科「電池のはたらき」では、「電池のつなぎ方で風の強さは変わるのか？」という問いに対し、「縦につなげると強くなる。」「つなぎ方では変わらない。」などの予想があげられた。それぞれの考えを根拠をもとに説明し合う中で、「意見が変わった。」「やっぱり縦につなげると風が強くなる。」と、子どもの変容がみられたり、より考えを強化したりする姿が見られた。しかし、中には集中力が続かず、話し合いの流れを把握しきれない児童や、考えをもっているそれを表現することを苦手としている児童などもある。そのため、教師から「どう思う?」「ここまででわからない所ある?」と投げかけて疑問や理解できない所をみんなで共有したり、意図的指名をしたりして全体でひびき合いの土台に乗っていけるよう意識している。

また、算数では考え方の説明をする場面で「ここまでなら説明できる」という子を取り上げ、「ここから先を誰かに助けてもらおう」と声をかけ、「こう言いたいんだと思います」「説明の続きで…」など他の子と協力して、考えを説明する活動を通して、みんなで考えを整理したり、まとめたりすることに取り組んできている。一つの問題についてひびき合っていこうとする姿勢は徐々にできてきている。

4. 単元と指導について

<単元について>

本単元では、日本が誇る伝統工芸品の一つとして、昭和59年5月31日に経済産業大臣（元通商産業大臣）指定の「伝統工芸品」に指定を受けた「小田原漆器」について取り上げる。小田原漆器の良さや歴史を理解することで、小田原漆器を受け継いできた人々の工夫や努力に気づくことをねらいとしている。また、学習の中で神奈川県 の地形や産業・交通網と「小田原漆器」との繋がりにも目を向けることで、土地の特性を生かした産業を活用していることにも気づかせていきたいと考えている。

<指導について>

国語の「日本のほころ和紙」から日本のほころ伝統工芸はどれも職人による丁寧な手作りによって作られ、現在まで受け継がれてることに触れる。そして、単元の導入では、小田原漆器とそうでないものに触れ、どれが本物の小田原漆器かを考える。正解の小田原漆器は他のものと比べ、値段が高いことを告げることから「高い!」「伝統工芸品だから、これくらいするよ。」「どうしてそんなに高いの?」と話し始めるだろう。その中で自然と『どうやって作っ

ているのか?』『どうして小田原で作られているのか?』『お椀の他にどんなものが作られているのか?』『職人さんに会いたいな。』といった疑問や願いが出てくるだろう。この疑問や願いを解決する中で、小田原漆器の職人の大川さんと出会っていく。さらに、職人との出会いを通じて、子どもたちが小田原漆器の魅力をより深く知っていく。そして、それとともに小田原漆器が抱えている課題『後継者不足』についても気づいていくだろう。現在、多くの伝統的な地場産業は、後継者不足が深刻な問題となっている。小田原漆器においても、全盛期には200人～300人だった職人が、現在はたった2人と減ってきている。この状況から子どもたちの解決したい問題が生み出されていくと考えている。

本時の子どもが解決したい問題は「どうすれば小田原漆器を守っていけるのか」である。大川さんから聞いた話や自分たちが調べた小田原漆器の現状をもとに、小田原漆器の職人が減っていること、小田原漆器全体の生産額が落ちていることなどの問題と子どもたちは出会っていく。子どもたちは直接お話を聞いたり、学んできたりした経験があるからこそ、『このままではまずい。』『何とかできないか。』と考えていくだろう。そのような子どもたちの思いをもとに、小田原漆器のことを考えることで、子どもたちが解決したい問題になっていくと考えている。

本時では、「小田原漆器を守っていくためのより良い方法を考えることを通して、小田原漆器の魅力や小田原漆器の職人の技術や願いに立ち返りながら、小田原漆器の未来について考えを深める姿」をひびき合いの姿としていきたい。どの方法もいいねという発表会ではなく、より良い方法を検討していく中で、手作りの意義、職人の願いについて気づいていけるように焦点化できる発問や資料を提示していく。その際、意見が変わることだけでなく、意見がより強化されることや迷うような姿も認めていきたい。また、自分の考えを表現することが苦手な子や理解するのに時間がかかる子のために、ペアやグループでの交流も積極的に実施していく。

5. 単元構想 社会科 「地域で受けつがれてきたもの」

単 元 目 標	○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身に着けるようにする。 ○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握してその解決に向行けて社会へのかかわりを選択判断する力・考えたことや選択判断したことを表現する力を養う。 ○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。
------------------	--

◆国語「世界にほこる和紙」

- ・古くから受け継がれているんだね
- ・伝統工芸って職人さんの手作りなんだ
- ・箱根の寄木細工は聞いたことあるよ。
- ・小田原にも小田原漆器があるじゃん。

・本物に触れる機会をつくる。

本物の小田原の伝統工芸「小田原漆器」はどれ？ ①



- ・木目のようなものがある。
- ・少しザラザラしてるよ。
- ・色が明るい。・橙色？
- ・給食でたまにでるお椀みたい！



- ・木目があるよ。
- ・手触りがつるつるしてる。
- ・匂いはしない。



- ・軽い。・木目が偽物っぽい。
- ・すべすべするよ。
- ・安そう。
- ・100均に売ってた。



- ・木目がリアルで木っぽい。
- ・ざらざらしない？
- ・色が濃くてテカテカしてる。
- ・匂いはしないな。

どうして小田原漆器は値段が高いの？ ②

・小田原漆器の魅力に気づける資料『映像』『データ』を提示。

・手作りだからじゃない？ ・機械も使っているでしょ。・作るのが大変そう

・その前に、小田原漆器のこと調べてみたいな。 ・どんなものがある？

・どうして小田原で作られるようになったのかなあ？ ・どうやって作るのかも知りたいな。

どんなものがあるのか③

- ・お椀やお盆、お弁当箱があるね。
- ・ネックレスも売っているんだ。
- ・通販で17600円のどんぶりが売ってる！・高い！・それほどいいものなんだよ
- ・街かど博物館 大川木工所が近くにある！行きたい！

小田原漆器はどうやって作っているのか④

- ・すごく手間がかかっているね。 ・YouTubeで紹介されてるよ。
- ・動画を見たら、全部手作業だったよ。
- ・職人になるまですごく時間がかかりそう。
- ・本当に作っている様子を見てみたいな。

どうして小田原で作られるようになったのか⑤

- ・漆器を作るための木がたくさんあったみたいだよ。・東海道の宿場町で、人がたくさん来たみたいだよ。・職人の人が集まりやすかったんだね。・旅人がお土産に買って帰ったみたい。・職人の人が技術を伝えてきたんだね。
- ・職人の大川さんって三の丸の近くに住んでるみたいだよ。
- ・職人の人（大川さん）の話を聞いてみたいな。

・小田原漆器の魅力と現状を話して頂く。

・小田原漆器の特徴や職人の苦労や努力について知ることができる。（知）

小田原漆器の職人の人の話を聞いてみよう？⑥

- ・すごい技術がいるんだね。 ・職人が減ってきているんだあ
- ・小田原漆器の職人ってこんなに減ってるの？ 小田原漆器だけでなく、他の伝統工芸品も減ってるんだあ。
- ・寄木細工も同じ状況なの。 ・このままじゃ小田原漆器がなくなってしまう！ ・どうにかして小田原の魅力を守らないと！

どうすれば、小田原漆器を守っていかれるのか？ ⑦本時

子供向けの小田原漆器体験教室をする。 ○子どもたちに知ってもらうことで、漆器の魅力がもっと広がると思う。 ○学校に来てもらって体験教室とかをやってもらえばいいかも。 △子どもに伝えても大人になるまで時間がかかるから効果がすぐに出ない。 △学校をまわってばかりいたら、仕事にならないよ。	小田原漆器のことをネットや動画で伝える。 ○世界中の人に小田原漆器の魅力を伝えていくことができれば、魅力ある仕事だと伝わっていくんじゃない。 <u>○小田原漆器ユーチューバーが出てきたら、魅力伝えられるよ。</u> △世界の人よりも日本国内の人に知ってもらう取り組みが大事。 <u>△映像よりも本物の方がすごさが伝わるんじゃない。</u> 僕らも本物見た方が感動したよ。	魅力的な新しい小田原漆器を作る。 ○小田原漆器の伝統的なものに新しい工夫をすることで、注目してもらえるよ。→ ○若い人向けの小田原漆器の作品を考える。→ △新しいものよりも、今ある小田原漆器の魅力が伝われば、作ってみたい人は増えると思う。	小田原漆器を買ってもらう工夫をする。 ○買う人が増えれば、創人も働きやすくなると思う。 <u>○値段をもっと安くすればみんな買いやすいんじゃない。</u> △小田原漆器を買ってもらう工夫も大切だけど、職人が増えなければ、作ることが追いつかなくなる。 <u>△値段を下げたら、手作りの意味がないよ。</u>	その他 ○材料も調達しづらくなっているから、木を植林すると良い。 ○技術を伝える講習会を職人同士でやっていけばどうか。 <u>○伝統的な職人の技を継承する学校を作ったらいい。</u> △木を植えてもすぐには効果が出ないよ。 △学校を作れるだけの費用がないよ。
---	--	---	---	---

小田原漆器の魅力をどうやったら伝えられるかな？⑧⑨⑩

6. 本時について

- (1) 本時目標 どうすれば小田原漆器を守っていけるか話し合う活動を通して、小田原漆器の職人の技術や願いに立ち返りながら、小田原漆器の未来について考えを深めることができる。

主な学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
◆どうすれば小田原漆器を守っていきけるのか？ ◆伝える工夫 ○小田原漆器体験教室 ○小田原漆器祭り ○ポスター、パンフレット、展覧会 ○YouTube ○ネットやインスタ →世界に発信していく ◆書く方の工夫 ○技術を伝える →講習会 ○職人の学校を作る →簡単に職人、街中の子ども達に、 ○職人になる ◆新しい小田原漆器を作る工夫 ○新しい小田原漆器 - アクセサリ、デザインを変える →若い人も興味を持つ ◆売りの工夫 ○何かとコラボ →拾葉のおぼんや食器 ○売場場所→全国・世界 ○販路をもっと広くする - は買いやすい ◆ゆがみがでない ・高湿度 ・木のぬくもり ・木のかおり→自然 ・音を使い切る ・えいせいにも良い ・使っていると輝くくなる ・食べるのとほっとする ・木の模様【年輪】 ・同じものはない ・技術 ・安全 ・歴史 △職人 △今もやっている △日本人（小田原市）でも知らない △デザイン △高い 大川さんの思い（伝統工芸士） ・今までの伝統を大切に ・いいもの作ってれば、いつかまた、みんなが買ってくれる。（SDG's、若者、観光客） そのべさんの思い（職人） ・今までの伝統にこだわらず、新しい方法も ・世界に提案（三ツ星レストラン） ・女性の職人など ◆どんなことを大事にして、小田原漆器を守っていくのか？	◆漆器に守っていくための声援についての調査結果までお伝えし、合いの場所から声援は入る。 ・できるだけ児童同士の話し合いを促し、絵筆に意見の差を分けたりやすく位置付ける。 ・クラス全体での話し合いだけでなく、ペアやグループでの話し合いの時間を取り、全体で話さなくても児童にも発言の機会を与える。 ・それぞれの方向性への賛成や賛同・反対意見を言う中で、児童の意見のずれを取り上げる。 ◆★南北のポイント ・小田原漆器を守っていくためにはどの方法が良いか？ ・販売をもっと広くすれば良いのか？ ・販路に拘ってもらうのが良いのか？ ・小田原漆器がたなく売れるようになれば問題が解決するの - か？ ・国産さんの声「①小田原漆器を世界中に広げたい ②最終的に美し - い物売ってほしい」この書き方から考えると、どの方法が良いの - か？ ・どんなことを大事にして小田原漆器を守っていくのか？ ◆小田原漆器の職人の技術や歴史に立ち寄りながら、小田原漆器の未来について考えを深めることができる。【思考・判断・表現】

7. 実践を終えて

(1) 子どもとどのように単元をつくってきたか（本時まで）

単元の導入では、小田原漆器とそうでないものに触れ、どれが本物の小田原漆器かを考えた。小田原漆器は他のものと比べると値段が高いことが分かった。「高い!」「伝統工芸品だから、これくらいするよ。」「どうしてそんなに高いの?」と意欲をもって学習をスタートした。その中で自然と生まれてきた、『どうやって作っているのか?』『どうして小田原で作られているのか?』『お椀の他にどんなものが作られているのか?』といった疑問を大切に学ぶことを重視した。この疑問を解決する中で、子どもたちは小田原漆器の魅力をより深く知り、それとともに小田原漆器が抱えている課題『後継者不足』についても気づいていった。その中で、「どうすれば小田原漆器を守っていけるのか」という問題が生まれた。自分たちが調べた小田原漆器の現状をもとに、自分の考えをもって本時に臨んだ。

(2) 成果と課題

成果としては、本時の「どうすれば小田原漆器を守っていけるのか?」という学習問題は、子どもたちの試行錯誤の中から自然とでてきた問題であり、実態に即していたと考える。話し合いでは、事前にノートに自分の考えを書かせたことで、一人ひとりが学習問題について考えをもち、ポスターや動画などの「知らせる取り組み」や、新しいデザインやこれからを担う子どもが使うようなおもちゃなどの、「商品開発の取り組み」など、自分の考えを発表することができた。また、友だちの意見に付け足したり、「あ〜。」「でも・・・。」などと反応したりしながら考え、自分の言葉で伝えようとする姿も見られた。その上で友だちが考えたことや、「伝統を大切にしていきたい」大川さん、「新しい取り組みが必要」と考える藺部さんという、違う考えをもった2人の職人の考えに触れ、「400年続いてきた伝統だから・・・」「でも、今のままだと・・・」と、自分の考えを変化させたり、強化したりする子が見られたことも、ひびき合いの姿ではないかと思う。

課題としては、本時の問題が子どもの考えたい切実な問題になっていなかったことで活発な話し合いや、より深くひびき合う姿がみられなかった。本時の「どうすれば小田原漆器を守っていけるのか」という問題を子どもたちがひびき合って追究していくためには、前時までに調べるだけでなく、大川木工所への見学や大川さんへのインタビューなどをしていく必要があった。そうすることで、子どもたちの中にある驚きや疑問、それを解決したいという思いが高まり、学習問題により迫ることができたのではないかと考える。また、子どもたちの発言やつぶやき、疑問をしっかりと拾い、全体に「どういうこと?」などと返していくことで問題への追究も深まっていったのではないかと思う。

本単元の学習は「なんで小田原漆器はこんなに高いの?」という子どもたちの思いから学習を始めたことで、はじめのうちは高い関心と意欲をもって学習に取り組む姿が見られた。しかし、その高い意欲を最後まで継続できなかった。個々の見とりや教師の出所を課題として意識し、これからも授業改善に努めていきたい。